

### 明治から平成にかけて愛された歴史に幕 金剛小学校敷川内分校閉校記念式典



▲143年の歴史に感謝を述べる児童たち

明治7年に創立された金剛小学校敷川内分校が平成28年度をもって閉校することに伴い、3月18日、同校グラウンドで閉校記念式典が執り行われ、在校生や教職員、卒業生など約300人が出席しました。

式では、樋口昭彦校長が「敷川内分校の伝統と良さを引き継ぎ、感謝の気持ちを持って、みんなで前に進むことが大切だと思えます」と式辞を述べました。また、児童を代表して3年生が「敷川内分校でのたくさんの思い出を胸に、本校へ行っても一生懸命頑張ります」と母校に別れを告げました。

式典後は、老人会や婦人会によるアトラクションや運動会が行われ、親しんだ学びやとの別れを惜しましました。

### 八代妙見祭をホノルルでPR 第23回ホノルルフェスティバル



▲「亀蛇」も勇壮にパレードに参加

▲復興支援に感謝の気持ちを表す流鏝馬保存会のメンバー

米国ハワイ州ホノルルで3月10日から12日にかけて開催された第23回ホノルルフェスティバルで、八代妙見祭の人気者「亀蛇（ガメ）」が勇壮な舞を披露しました。

八代妙見祭流鏝馬保存会のメンバーを中心とした26人がグランドパレードに参加し、熊本地震に対し世界各国から寄せられた支援に感謝の気持ちを表すとともに、昨年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭の魅力の世界に向けてPRしました。

沿道に詰めかけた観客は、初めて見る亀蛇に驚き、歓声を上げ、亀蛇の舞にたくさんの拍手を送っていました。

### 感動をありがとう 秀岳館野球部 ベスト4



▲暑いエールを送るアルプススタンド内

3月19日に開幕した「第89回選抜高校野球大会」で県勢として、2年連続の出場となった秀岳館は新チームで臨み、全国の名門校を相手に戦いました。

1回戦では、奈良県代表の高田商を相手に満塁本塁打を含む12安打11得点を挙げ、11対1と大勝。続く2回戦は、昨夏の覇者、栃木県代表の作新学院と対戦し、息詰まる接戦を3対2で逆転勝利。準々決勝では、群馬県代表の高崎健康福祉大高崎に15安打の猛打で先制し、9対2で大勝しました。準決勝では、春夏連覇の経験もある強豪、大阪桐蔭に挑みましたが1対2で惜敗。

決勝の舞台にはあと一步届きませんでした。昨年の春夏に続く3季連続でベスト4を納めました。

### 八代都市計画道路・南部幹線の一部が供用開始 南川大橋完成記念式典



▲式典でテープカットとくす玉を割る関係者

3月26日、八代都市計画道路・南部幹線の一級河川南川を架ける橋梁として整備が進められてきた「南川大橋」が完成し、記念式典が行われました。

同路線は、市と県で施工区間を分担して整備されるもので、中心市街地や重要港湾八代港と南九州西回り自動車道の八代南インターチェンジ、国道3号を結ぶ幹線道路で、円滑な通行を確保するためのバイパス道路としての役割を担っています。

今回は、市が整備する南川を挟む区間が南川大橋の完成とともに供用開始となりました。

※南川大橋は、橋長194m片側2車線で事業費は約32億円です



## 日奈久温泉スプリングフェスタ 櫛山さくらウォーク



▲風景を眺めながら歩く参加者

日奈久温泉スプリングフェスタ「櫛山さくらウォーク」が3月26日に行われ、家族連れや友人同士など約200人が参加しました。これは、日奈久温泉を発見した浜田六郎左衛門への感謝を込めて同フェスタ実行委員会主催のもと、毎年開催されており、今年は特に震災復興補助事業の一環として開催されました。参加者は、春の息吹を感じながら標高290mの櫛山の山頂を目指し、片道約3kmある道のりを自分のペースで登り、山頂では櫛山から臨む風景を背景に、記念写真撮影や宝探しなどのイベントを楽しみました。

## 本の貸出冊数 1万冊を突破 昭和小学校ハッピーブック運動表彰式



▲各学年の代表者に表彰状が手渡されました

3月14日、昭和小学校でハッピーブック運動の表彰式が行われ、全校児童47人が1年間の目標冊数を達成し表彰されました。ハッピーブック運動は、読書活動とおもしろい心を育むことを目的に、1年間の目標読書冊数を小学校低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊、中学生30冊と定められています。昭和小学校は学校全体で読書活動の推進に取り組み、2年連続で全員が年間目標読書冊数を達成するとともに、学校の蔵書数6627冊に加え、移動図書館ともたち号も利用して、学校の年間総貸出冊数が1万冊を突破しました。

## 買い物弱者を救済 地元有志が「湯屋サボ店」を運営



▲接客する仁田原代表（左）

宮地町を通る新幹線高架下の隣接地に毎週金曜日朝6時に「湯屋サボ店」が開店しています。宮地校区では、高齢者が増加しているなか、商店やコンビニが閉鎖し、買い物弱者と呼ばれる人たちが多くなっています。この店は、買い物弱者の救済を目的に、仁田原忠男代表をはじめとする地元有志8人がボランティアで運営しています。毎週木曜日には、高齢者や障がい者宅への移動販売も行っています。買い物に來ていた角義雄さん（宮地町）は「身近なものを買うことができるので、とても便利です」と笑顔で話しました。

## 春の坂本を満喫 第2回さかもと菜の花フェスタ



▲30kmのサイクリングコースもスタート

4月2日、坂本住民自治協議会の主催で「第2回さかもと菜の花フェスタ2017」が開催され、親子連れなど約150人が参加しました。同フェスタは、ウォーキング、サイクリング、椎茸原木オーナーと竹の子掘り、カヤック体験の4コースがあり、参加者は事前に申し込んだコースに分かれて、春の坂本を満喫しました。ウォーキングは、「グリーンパークさかもと」を出発し「元湯憩いの家」までを歩く約7.5kmのコースで、休憩所ではSL人吉の通過を間近で見たり、名物の「ぼたもち」に舌鼓を打ちました。

## 観光の目玉に遊覧船と人力車 遊覧船と人力車のお披露目会



▲遊覧船を楽しむ、ひかり児童館の児童たち

3月29日、体験型観光メニューで使用する「遊覧船」と「人力車」のお披露目会が厚生会館と八代城跡で行われ、主催のDMOやつしろ関係者や市、市議会議員など約80人が出席しました。この体験型観光メニューは、八代城跡石垣や桜などを観覧してもらい、国内外の旅行客の誘致と地域活性化を推進する目的で企画されたもので、クルーズ船の寄港日や週末に実施する予定です。遊覧船を体験した児童たちからは「とても楽しかった」「石垣がとても大きかった」などの声が聞かれました。

## 春の風景を描く 球磨川春のスケッチ大会&球磨川鍋



▲みんなで楽しく絵を描きました

3月26日、球磨川アドベンチャーやつしろが主催の球磨川春のスケッチ大会&球磨川鍋が行われ、24人が参加しました。スケッチ大会では、球磨川や満開の菜の花を描く姿が多く見られ、春の風景を画用紙いっぱいに取りました。また、球磨川鍋（いも煮の振る舞いやカレー体験、オカリナのコンサートなども行われ、参加者は楽しいひとときを過ごしました。家族で参加した山口絢楓さん（代陽小6年）と蒼生さん（代陽小2年）は「みんなで描けたので楽しかった」と話しました。





### 100歳 おめでとうございます



木村 モ>エさん  
(郡築七番町)  
大正6年3月21日生

親子ともに大の巨人ファンのモ>エさん。仕事を辞めてから70歳まで、ゲートボールを毎日練習しており、大会ではいい成績を取っていたそうです。長寿の秘訣は「頑張って仕事をしたので、体力が良かったから」。



植村 数義さん  
(鏡町)  
大正6年3月20日生

庭づくりが趣味の数義さん。建設業の会社を経営するかわら、建設業組合などの役職にも多く携わり、多忙な日々を過ごしました。長寿の秘訣は「適度な運動、食事、飲酒をしてきたから」。



吉村 タツ子さん  
(永碓町)  
大正6年3月20日生

和裁や洋裁が得意だったタツ子さん。子どもたちに防空頭巾や衣類を作ってあげては、家族から喜ばれていました。長寿の秘訣は「出された料理をしっかり食べること」。



角田 サカ工さん  
(沖町)  
大正6年3月16日生

畑仕事が好きで、2年前まで自宅で野菜を作っていたサカ工さん。ゲートボールが得意で、よく友人とプレーを楽しんでいたそうです。長寿の秘訣は「健康に留意し、料理の味付けを薄味に心がけていたから」。



おうだ 綱田 満起子さん  
(坂本町)  
大正6年4月17日生

若いころは得意の裁縫を活かし、着物縫う仕事をしてきた満起子さん。94歳まで身の回りのことは自分で行っていたそうです。長寿の秘訣は、「近所の人が親切にしてくれたから」。



杉永 フジ子さん  
(坂本町)  
大正6年4月1日生

デザイナーズでおしゃべりをするのが楽しみなフジ子さん。子どもを育てながら、養蚕や畑仕事をしていました。長寿の秘訣は「好き嫌いなく何でも食べることで、若い頃に身体を動かしていたこと」。



陣野 花江さん  
(千丁町)  
大正6年3月28日生

田浦町生まれの花江さん。若い頃は林業や田植えの手伝いをしていました。60代の頃に本市へ移り住み、地域の人たちとゴルフやゲートボールをして楽しい生活を送りました。長寿の秘訣は「何でも食べることで」。



二保 ヨシカさん  
(日奈久東町)  
大正6年3月27日生

仕事熱心だったヨシカさん。趣味は編み物と裁縫で、子どものセーターや孫の浴衣などを作り、最近もひ孫の体操服にゼッケンを縫い付けました。長寿の秘訣は「なんでも好き嫌いなく食べることで」。

### 無病息災を願う 印鑰神社春季大祭 鮎取り神事



▲魚を取る参加者たち

4月7日、鏡ヶ池で鮎取り神事が行われ、多くの見物客が集まりました。この祭りは、蘇我石川宿禰がこの地を訪れた際、村の若者たちが鏡ヶ池に飛び込み、鮎を手掴みで取って献上したことが由来であると云われ、800年以上の歴史を持つ伝統行事です。締め込み姿の若者が池に飛び込み、鮎や鯉を手掴みしたり、池の泥を見物客に塗ると悲鳴や笑い声が飛び交いました。この泥を浴びると、無病息災に過ごせると伝えられています。今年も鏡座と名付けられた物産展も開催され、八代の食とステージイベントを楽しみました。

### 自転車の安全な乗り方を再確認 高齢者自転車安全運転研修



▲安全な自転車の乗り方を実践中

4月9日、本市と八代警察署主催のもと、八代ドライビングスクールで市老人クラブ連合会と交通安全母の会の会員約40人が、高齢者に対する自転車安全運転研修に参加しました。応急処置研修では、突発の事故に備えて心肺蘇生法や止血法について学習し、自転車安全運転研修では、自動車学校のコースを利用して自転車と自動車に潜む危険を再現し、安全な乗り方について学習しました。研修に参加した三栗野恵美子さん(郡築一番町)は、「自転車の安全な乗り方を再認識することができてとても良かった」と話しました。